

摂南大学学生による3年間の被災地ボランティア活動

本学学生は、毎年東北地方で復興ボランティア活動を行っています！

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。震災の影響で多くの大学が休校となり、全国から集まった大学生ボランティアが被災地の復旧活動を担いました。本学内でも、「被災地の力になりたい！」との声があがり、1か月後の4月、教養特別講義「(被災地)ボランティア活動」(通年:2単位)を開設しました。この講義では、学内での事前講義、現地(東北地方)での活動、事後報告会発表を履修生に義務付け、単に「東北地方でのボランティア活動を経験」するだけでなく、その経験が「学び」となるよう工夫しています。

講義開設から3年。履修生は合計30名になりました。ボランティアの内容は、震災発生当初に必要とされた「がれきの撤去」や「避難所の仕分け作業」から、「行方不明者の捜索」や「被災者の心のケア」など、時の流れと共に変化しています。しかし、「被災地のニーズに寄り添った活動を行う」という姿勢は、当初から一貫して変わっていません。

本学学生が行った被災地ボランティア活動(例)

【2011年夏：1年目】



次々やってくる支援物資の仕分け作業。仕分けしても段ボールは山積みでした。

【2012年夏：2年目】



ご遺体の捜索活動。来る日も来る日も海岸に一列に並び、周辺を掘りおこしました。

【2013年夏：3年目】

昼食のピザづくり⇒



外遊びが難しい福島県の子供たちが思いっきり遊べるように提供された宿泊施設で、早朝から深夜までお手伝いをしました。

2013年度被災地ボランティア活動報告会の様子

日時: 2013年11月30日(土)(13:30~15:00)

場所: プレゼンテーションロビー(1号館1階)

内容:

- ・教養特別講義「ボランティア活動」の活動報告(教員)
- ・履修生による被災地ボランティア活動報告
 - 「(財)神戸国際支援機構」(宮城県)での活動1: L部学生
 - 「(財)神戸国際支援機構」(宮城県)での活動2: W部学生
 - 「社会貢献学会」(宮城県)での活動: W部学生
 - 「遠野まごころネット」(岩手県)での活動: W部学生4名
 - 「手のひらに太陽の家プロジェクト」(宮城県)での活動: W部学生2名
 - 「気仙沼市社会福祉協議会VC」(宮城県)での活動: W部学生2名
- ・自然災害に起因した被災地支援活動の動向と大学生ができること(教員)
- ・これまで3年間の被災地ボランティア活動(地域連携センター長)
- ・2013年度教養特別講義「ボランティア活動」総括(教務部長)



当日の発表風景。発表者は緊張していますが、「被災地を伝えたい」思いはみんな同じです。

被災地では、いまだ大学生ボランティアの力を欲しています。しかし、自主性や自立性が不足している学生は人材として必要とされないでしょう。このような社会貢献活動を行うために必要となる心構えや姿勢は、本講義の事前研修で学ぶことができます。また、東北のみならず、関西で自然災害に遭遇した際にも、この講義での「学び」を生かすことができます。

＝2014年度も、みなさんが履修してくれることを期待します！＝